

議案第35号

文化財の県指定について

1 提案理由

平成25年12月20日に、石川県文化財保護審議会から文化財の県指定について答申があったため

2 根拠法令等

石川県文化財保護条例第4条第1項

3 指定内容

有形文化財

| 種別 | 名称 | 員数 | 所在地 | 所有者 |
|------|-----------------|----|-----------------------------|-----|
| 絵画 | 絹本著色涅槃図 無分筆 | 1幅 | 七尾市小丸山台1丁目1番地 石川県七尾美術館 | 長壽寺 |
| 考古資料 | 野々江本江寺遺跡 出土品 | 4点 | 金沢市中戸町18番地1 石川県埋蔵文化財センター | 石川県 |

4 指定の日

告示の日

けんぽんちやくしよくねほんず 絹本著色涅槃図
むぶんひつ 無分筆

- 1 種 別 有形文化財（絵画）
- 2 名 称 絹本著色涅槃図 無分筆
- 3 員 数 1 幅
- 4 所 在 地 七尾市小丸山台1丁目1番地
石川県七尾美術館
- 5 所 有 者 ちょうじゅじ
長壽寺
- 6 指 定 理 由 別紙のとおり
- 7 形 状 縦 166.0 cm × 横 115.0 cm
- 8 年 代 室町時代
- 9 作 者 無分
- 10 維持保存方法 石川県七尾美術館にて保存管理
- 11 写 真 別添のとおり
- 12 そ の 他 七尾市指定文化財（昭和53年4月1日）

指 定 理 由

七尾市小島町の日蓮宗寺院である長壽寺^{ちようじゅじ}は、室町時代の長祿元年^{ちようろく}（1457）開創とされ、長谷川等伯^{とうはく}の養家である長谷川家の菩提寺である。

「涅槃図」は仏教の開祖・釈尊が、沙羅双樹の下で宝台に身を横たえて最後の説法を終えて入滅し、完全な悟りの境地に至る場面を描いたものである。

本図は、横幅40cm弱の絵絹^{えぎぬ}を三枚つなぎ合わせたものに描かれており、室町時代中期から後期頃の制作とされ、保存状態は極めて良好である。

宝台の四方にはそれぞれ沙羅双樹が2本ずつ描かれ、頭を北に向け右脇を下にしてゆったりと横たわる釈迦の姿が豊潤な筆線で描かれている。また、嘆き悲しむ会衆^{えしゅ}や鳥獣たちの躍動感にあふれた描写、熟達した筆致や落ちついた色調からは、優れた技量が窺える。

箱には「等伯之画」と記されており、かつては等伯筆として伝承されてきたが、画面右下方に捺された朱文二重方形印^{しゅぶんにしゅうほうけいいん}の文字が「無分」と解読された。

この「無分」は、等伯の語った画事に関する事柄を本法寺^{ほんぽうじ}第十世日通上人^{にっつうしやうにん}が書き留めた『等伯画説』^{がせつ}（重要文化財）において、「雪舟」から始まり、「等春」、「無分（無文）」、「宗清」、「等伯」へと連なる画系図に記載されており、本図は、その「無分」の現存する唯一の作例である。

永祿11年（1568）、等伯が三十歳の時に制作した妙成寺蔵^{みょうじやうじ}「絹本^{けんぼん}著色涅槃図^{ちやくしよくねはんず}」（県指定文化財）と比較して、動物の数などに若干の違いはあるものの構図は全く同じであるなど、長谷川派の涅槃図制作に大きな影響を与えた基本作品であり、能登の長谷川派を研究する上でも、極めて貴重な作品である。

このため、その文化財的価値は高く、有形文化財に指定し、その保存を図ることが必要である。



絹本著色涅槃図 無分筆

の の え ぼ ん こ う じ
野々江本江寺遺跡出土品

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 種 別 | 有形文化財（考古資料） |
| 2 | 名 称 | 野々江本江寺遺跡出土品 |
| 3 | 員 数 | 4 点 (木製板碑 1 点、木製笠塔婆竿 2 点、木製笠塔婆額 1 点) |
| 4 | 所 在 地 | 金沢市中戸町 1 8 番地 1 (石川県埋蔵文化財センター) |
| 5 | 所 有 者 | 石川県 |
| 6 | 年 代 | 平安時代末 |
| 7 | 指 定 理 由 | 別紙のとおり |
| 8 | 図面・写真等 | 別添のとおり |

指 定 理 由

野々江本江寺遺跡は、珠洲市野々江町・熊谷町くまんだにに所在し、珠洲市南部を北から南に流れる金川かながわ右岸の海岸段丘上に立地している。遺跡名にある本江寺ほんこうじは、明治7年（1874）の合併による野々江町成立まで存在した本江寺村に由来し、真言宗の「本江寺」と号する寺があったのでこの地名が付いたと『能登志徴しちよう』に記されている。

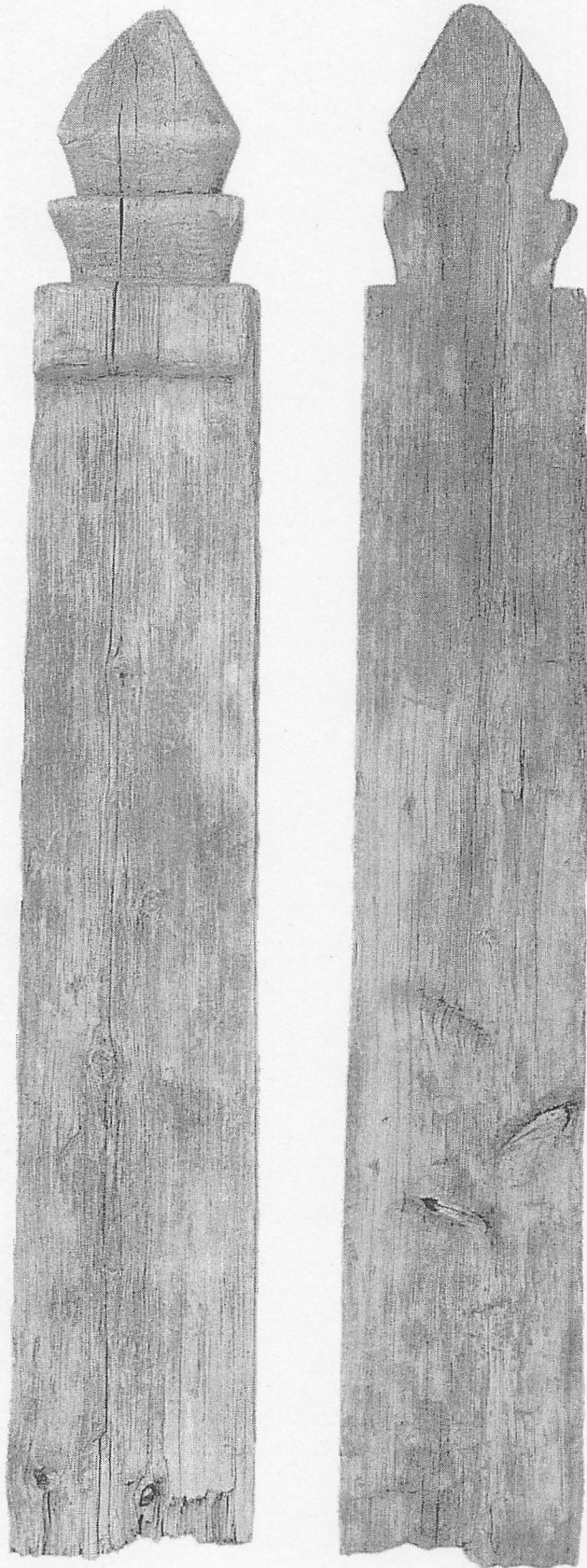
発掘調査は県営ほ場整備事業に伴って平成18年度から平成19年度にかけて行われ、柱穴はしらあなと小規模な溝等が確認され、平安時代から室町時代まで断続的に営まれた集落遺跡と考えられている。

今回、指定する考古資料は平安時代末期の木製品4点である。内容は木製板碑いたび1点、木製笠塔婆かさとうばの竿さお2点、同じく額がく1点であり、低湿地を埋め立てたとみられている地点からまとまって出土した。

木製板碑はヒノキ材で、頂部は山形、下部は切断されている。木製笠塔婆の竿1はスギ材で、頂部に臍ほぞを、背面に溝を設ける。下部は切断されている。竿2はスギ材で、頂部が腐朽しているが、下部は遺存している。額はアスナロ材で、左右を欠損するが、上部の円相えんそうには梵字ぼんじが刻まれており、下部は花弁形かべんがたを呈する。竿1に取り付けられていた製品であることが確認されている。

以上の出土品は、木製の出土例としては全国最古級のもので、中世の墓制や墓標の初源を考えるうえで極めて貴重な資料である。また、同時期の絵巻物である『餓鬼草紙がきぞうし』（国宝）に描かれた木製とみられる板碑や笠塔婆とほぼ同一形態のものであり、その実物が全国で初めて出土したことから、『餓鬼草紙』は現実の墓地の風景を描いていることが裏付けられた。

このように、野々江本江寺遺跡出土品は、我が国の墓制史研究上きわめて重要な学術的資料であり、その文化財的価値は高く、有形文化財に指定し、その保存を図ることが必要である。



(表)

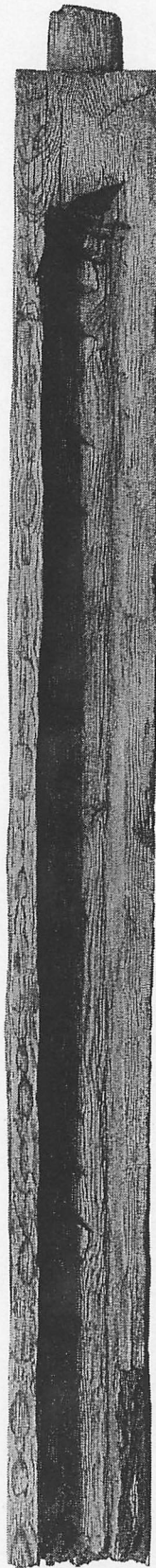
(裏)

長 193.0cm
幅 30.5cm
厚 12.0cm
樹種 ヒノキ

木製板碑



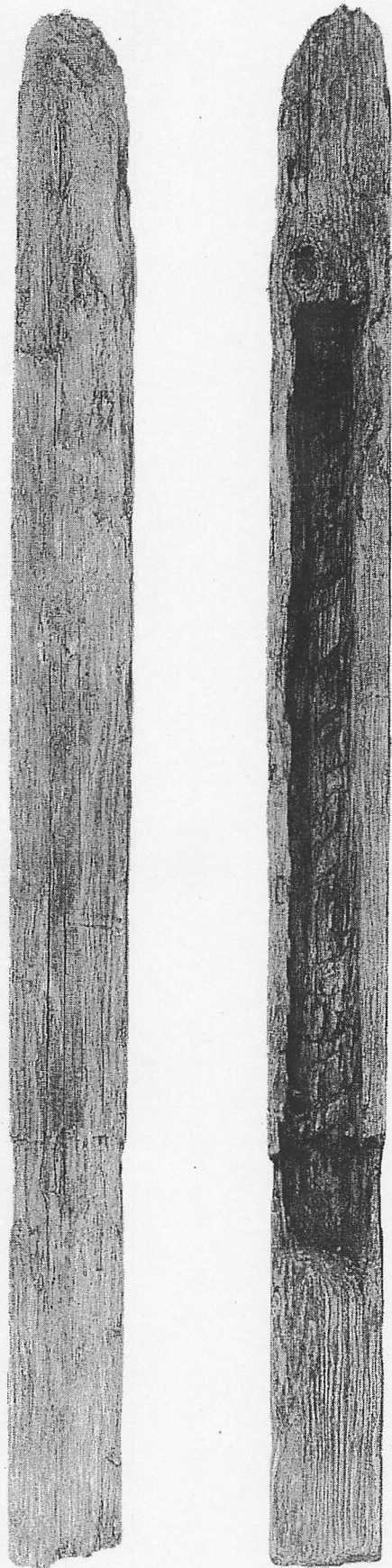
(表)



(裏)

長 190.6cm
幅 17.9cm
厚 13.3cm
樹種 スギ

木製笠塔婆 (竿1)

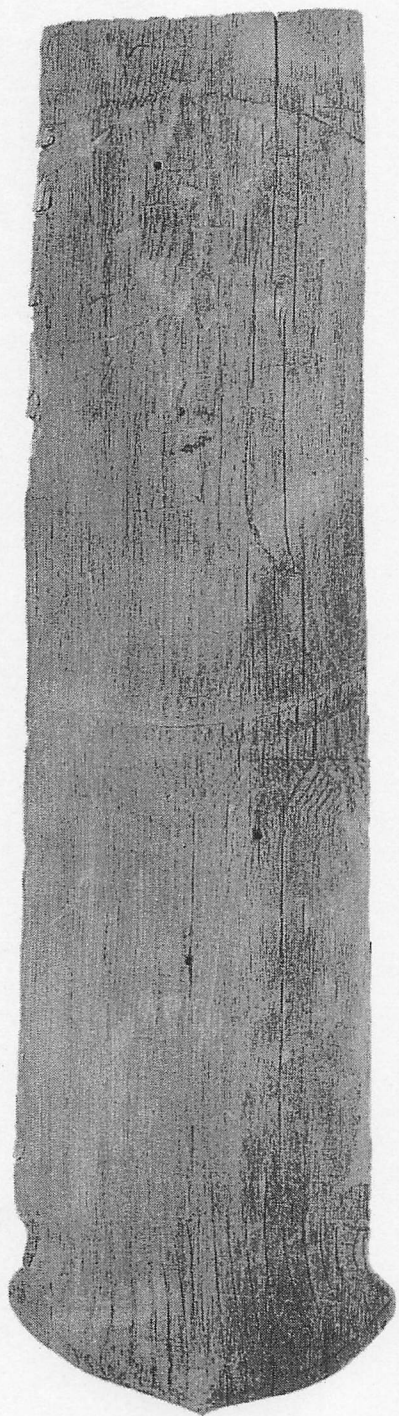


長 207.0cm
幅 15.7cm
厚 12.0cm
樹種 スギ

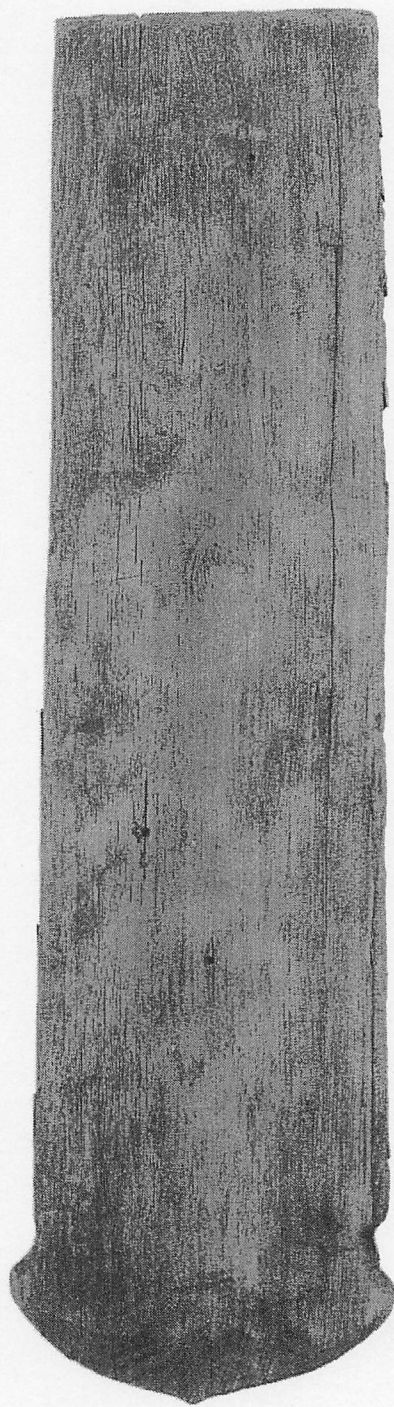
(表)

(裏)

木製笠塔婆 (竿2)



(表)



(裏)

長 69.5cm
幅 19.4cm
厚 2.0cm
樹種 アスナロ

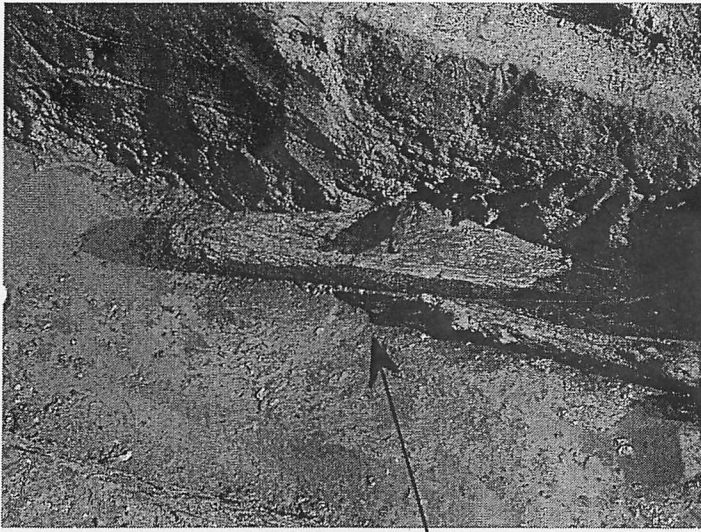
木製笠塔婆 (額)



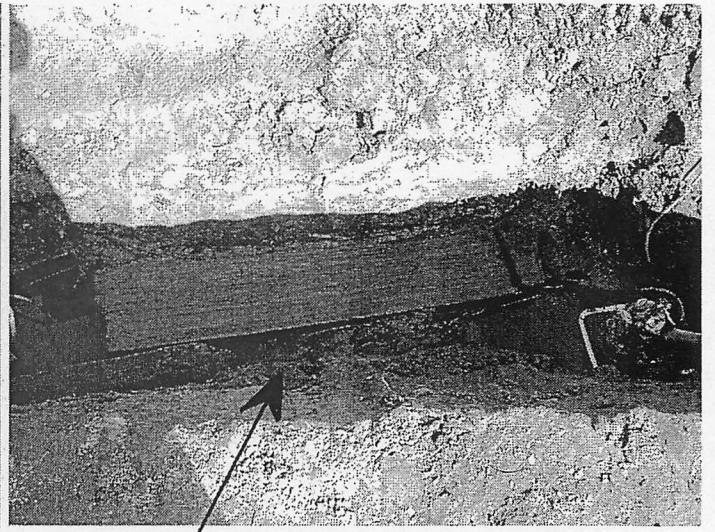
野々江本江寺遺跡の位置



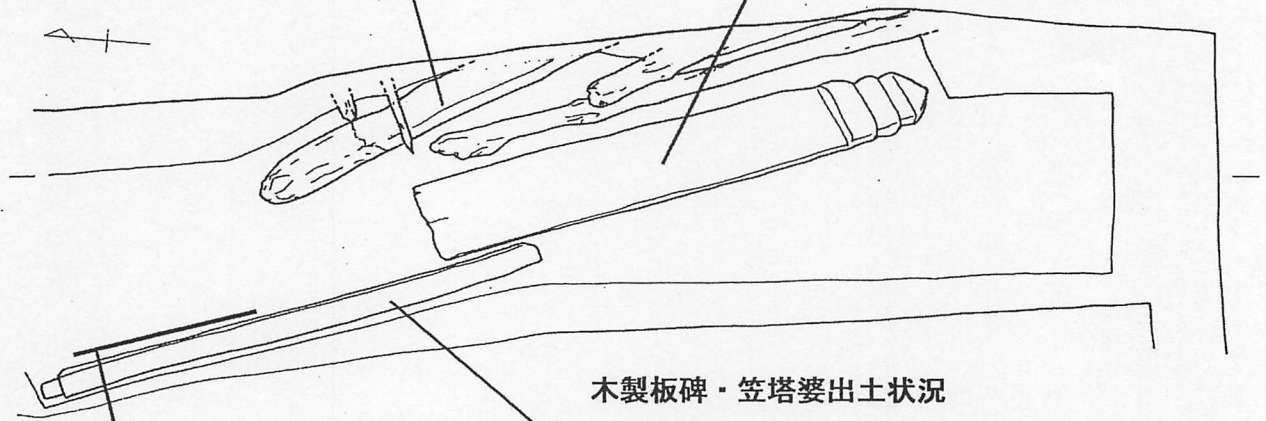
発掘調査区的位置



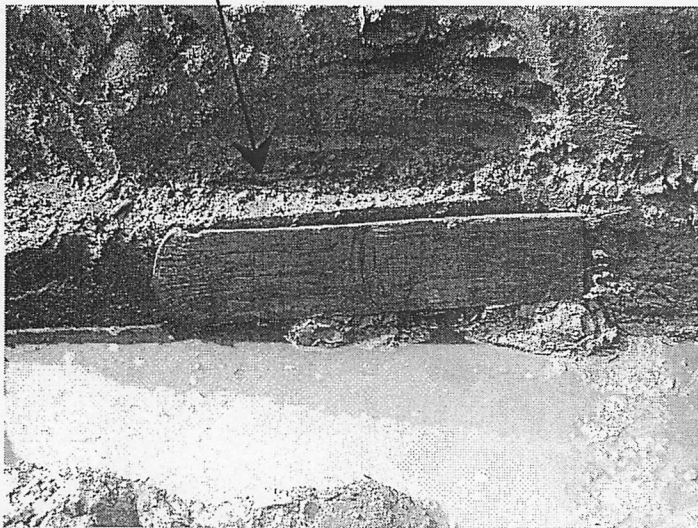
木製笠塔婆 (竿2)



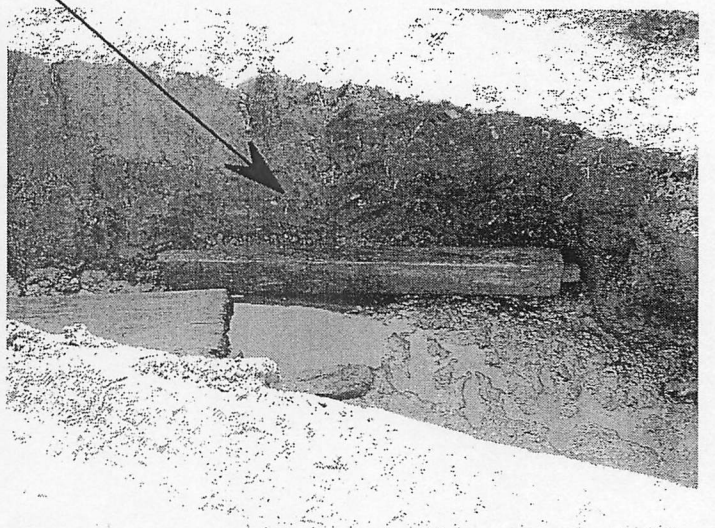
木製板碑



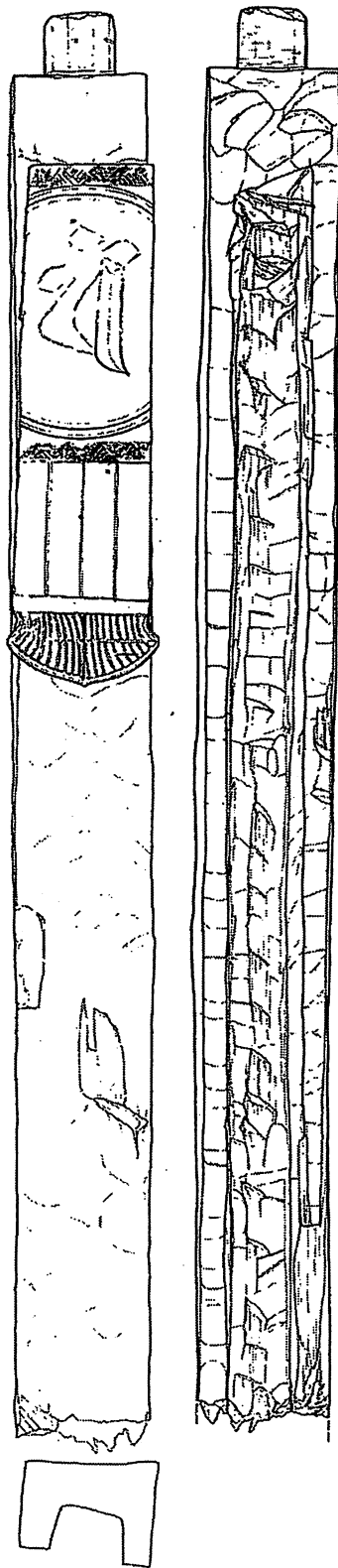
木製板碑・笠塔婆出土状況



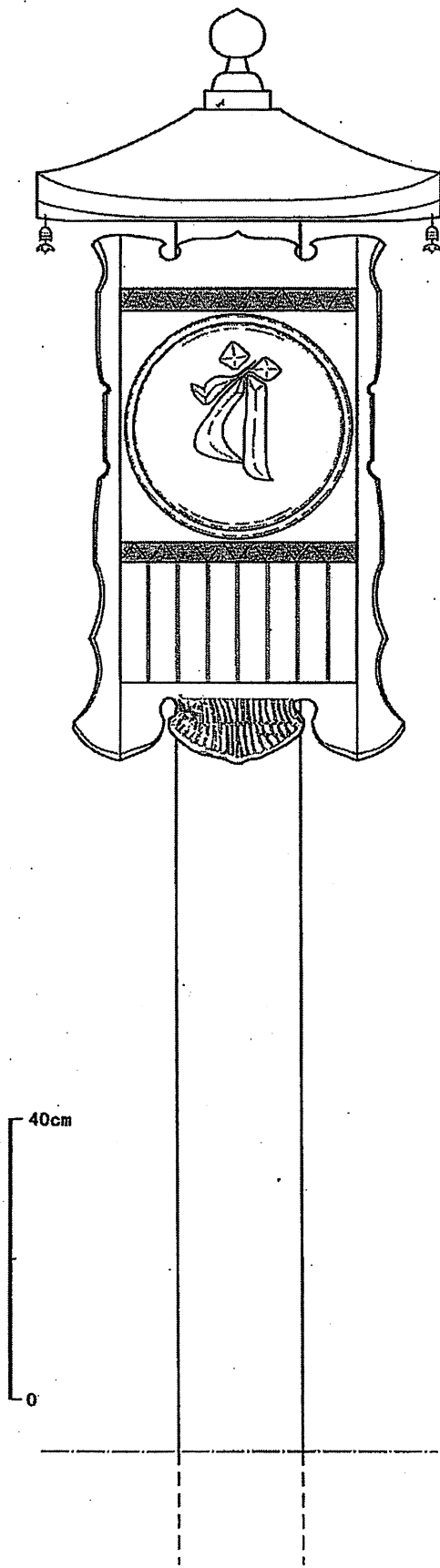
木製笠塔婆 (額)



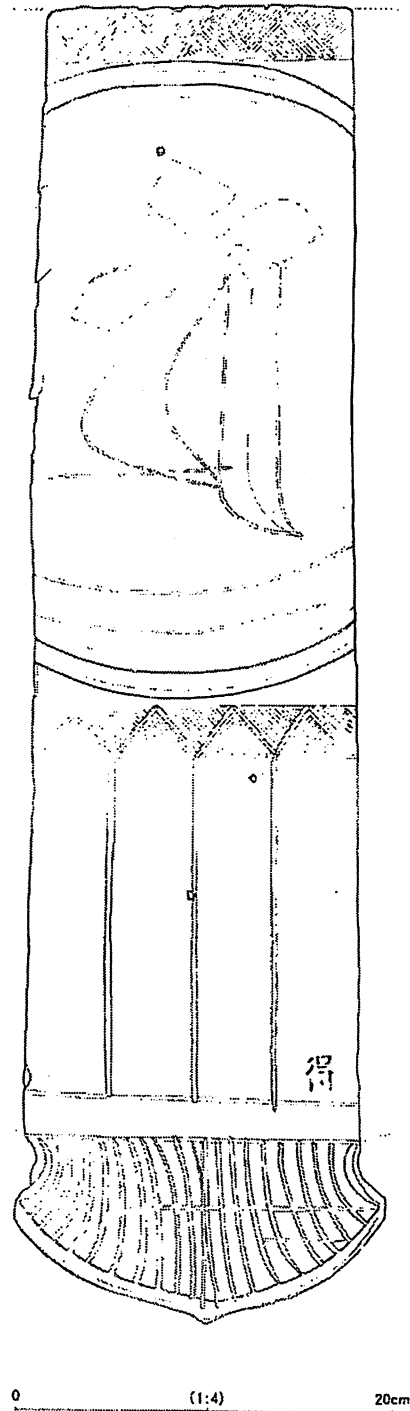
木製笠塔婆 (竿1)



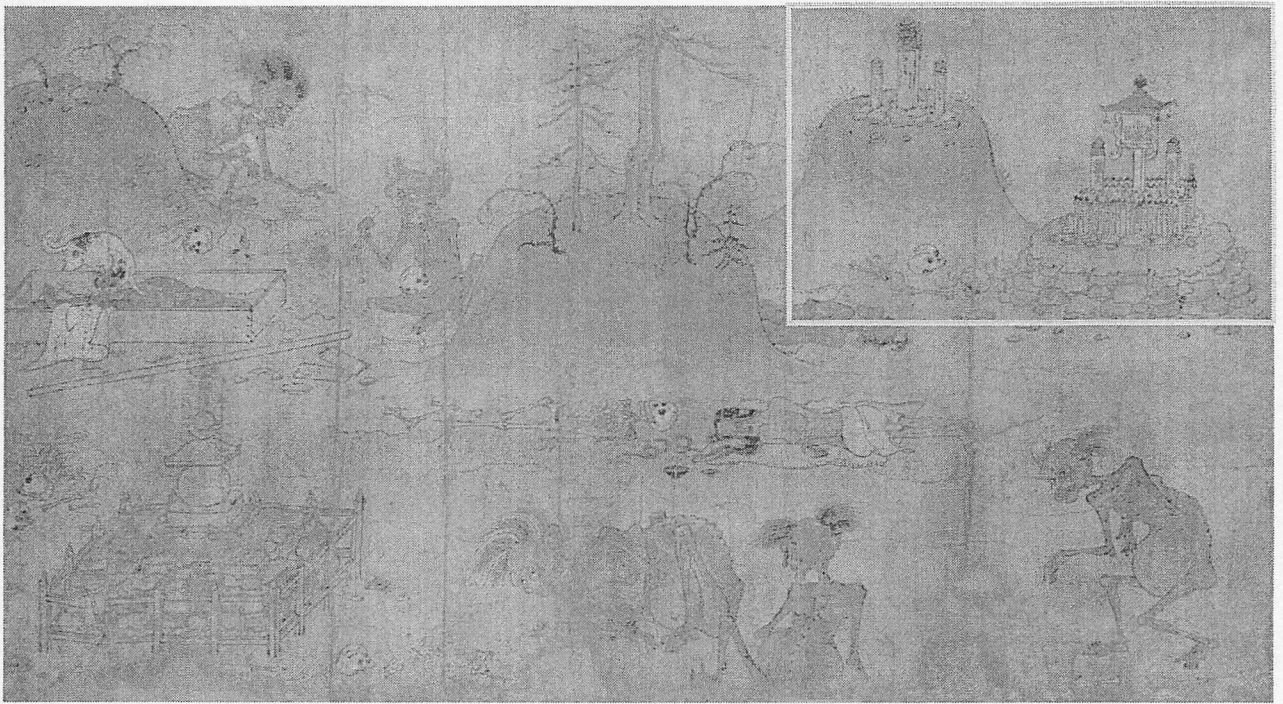
木製笠塔婆 (竿 1・額接合)



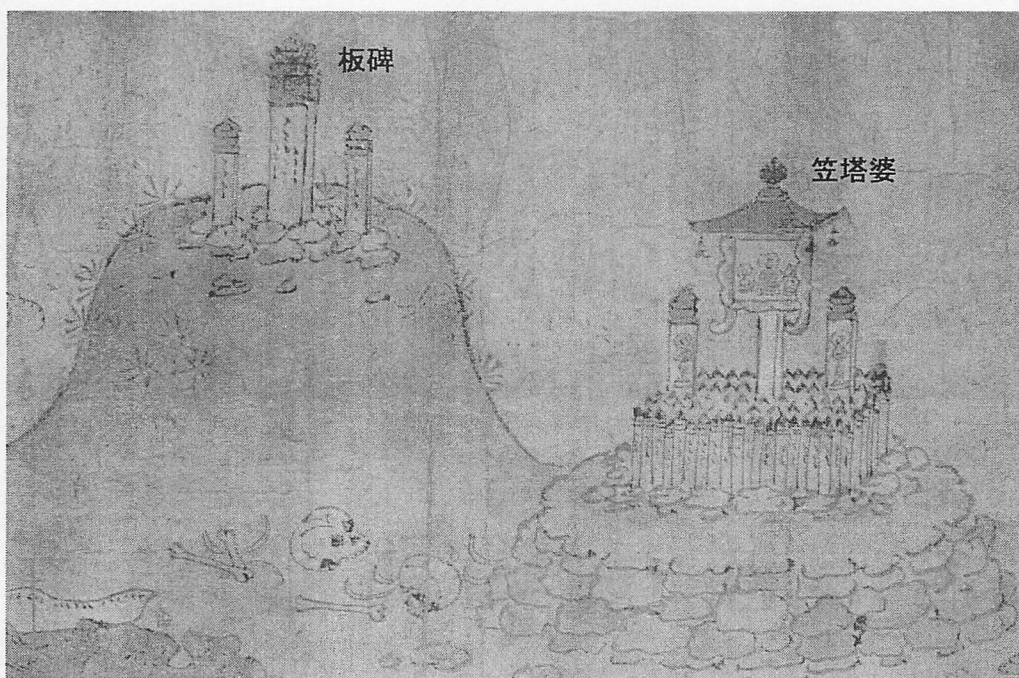
木製笠塔婆復元図



木製笠塔婆 (額)



『国宝餓鬼草紙』第4段（河本家本）東京国立博物館蔵 Image : TNM Image Archives
 転載禁止 Source : <http://TnmArchives.jp/>



（黄梓部分拡大）

石川県内の国・県指定文化財件数

| 区分 | 種別 | 国指定 | | | 県指定 | 合計 |
|-------------|-----------|------|--------|--------|-----------|--------|
| | | 国特別 | 重文指定 | 計 | | |
| 有形文化財 | 建造物 | | 43 | 43 | 42 | 85 |
| | 絵画 | | 9 | 9 | *1 53 | *1 62 |
| | 彫刻 | | 16 | 16 | 14 | 30 |
| | 工芸品 | 2 | 21 | 23 | 45 | 68 |
| | 書跡・典籍 | | 30 | 30 | 22 | 52 |
| | 古文書 | | 1 | 1 | 22 | 23 |
| | 考古資料 | | 7 | 7 | *1 15 | *1 22 |
| | 歴史資料 | | | | 20 | 20 |
| | 計 | 2 | 127 | 129 | *1 233 | *1 362 |
| 無形文化財 | 芸能 | ---- | | | 2 | 2 |
| | 工芸技術 | ---- | 10 | 10 | 5 | 15 |
| | 計 | ---- | 10 | 10 | 7 | 17 |
| 民俗文化財 | 有形民俗文化財 | ---- | 14 | 14 | 4 | 18 |
| | 無形民俗文化財 | ---- | 7 | 7 | 18 | 25 |
| | 計 | ---- | 21 | 21 | 22 | 43 |
| 史跡・名勝・天然記念物 | 史跡 | | 24 | 24 | 24 | 48 |
| | 名勝 | 1 *2 | 8 | *2 9 | 8 *2 | 17 |
| | 名勝及び天然記念物 | | 1 | 1 | | 1 |
| | 天然記念物 | 2 | 15 | 17 | 49 | 66 |
| | 天然記念物及び名勝 | | | | 1 | 1 |
| | 計 | 3 *2 | 48 | *2 51 | 82 *2 | 133 |
| 合計 | 5 *2 | 206 | *2 211 | *1 344 | *1, 2 555 | |

| | |
|---------|---|
| 重要文化的景観 | 1 |
|---------|---|

| | |
|---------------|---|
| 重要伝統的建造物群保存地区 | 8 |
|---------------|---|

*1 平成25年12月20日県答申含む

| | | |
|---------|-----|-------------|
| 登録有形文化財 | 建造物 | *2 95箇所228件 |
|---------|-----|-------------|

*2 平成25年11月15日国答申含む

| | | |
|-----------|--|---|
| 登録有形民俗文化財 | | 1 |
|-----------|--|---|

| | | |
|--------|----------|---|
| 選定保存技術 | 無形文化財等関係 | 1 |
|--------|----------|---|

| | |
|-----------------------|----|
| 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財 | 10 |
|-----------------------|----|

平成25年12月20日現在